

城戸照子学長補佐(経済学部教授)



こんにちは。学長補佐の城戸照子です。松浦恵子副学長のもと、「男女等しくその能力を十分に発揮して活躍できる大学」を目指して、男女共同参画の活動に取り組んでいます。2020年度は、COVID19感染拡大防止対策のため、種々の活動もZoom会議システム利用のオンライン企画ばかりでした。男子学生9割の講義「ダイバーシティ入門」(ムードをにわか勉強しながら)運営と、学外への発信を目的とする企画の準備が、忙しく同時進行しました。

12月のシンポジウムでは、山極清子先生の「女性活躍推進が経営パフォーマンスを高める」という信念とその具体的方策を教えてくださいました。東京の講師と結んでのシンポジウムは、理工学部と情報センターの皆さんの献身的なサポートのおかげで、成功裡に終わることができました。本当にありがとうございます。

高校の進路説明会や企業の女性との交流会での対話、オープンキャンパス、おおい人財育成プログラムという学外の人との勉強なども、ほぼオンライン限定でした。「私も頑張っているんだ」と勇気をもってもらえることが嬉しく、映像を利用したり(高校への出前講義)、メッセージ動画やリケジョ支援の実験動画を作成して大学webサイトで発信したり、なんとか工夫してきた1年でした。画面越しでも、みなさんの笑顔と会えることが楽しく、2021年もオンラインで張り切っちゃうかもしれません。

“活躍する女性研究者の情報について” IRセンター(兼担URA) 安部恵祐助教より

IRセンター(兼担URA)では、科研費・JST・AMED・ポストアワード等の支援をさせていただいております。直近5年では、女性研究者の科研費・JST・AMED申請に注力し、各部署協力のもと、R1年度科研費採択率は30%超を達成する等の成果も出ております。

また、2020年の大分大学の論文生産数は前年に比べ93本増加(22.3%増)と伸びておりました。大学の各戦略が結実する中、女性研究者の多大なる貢献がございました。

その中には、5本以上の国際共著論文を輩出されている理工学部天文学の小西美穂子助教や医学部衛生動物学の福田昌子助教の貢献があります。世界の潮流に合わせるべく、今後とも、女性研究者の皆様への研究推進等のご支援をさせていただければ幸いです。



「ラーメン」オタク(食品開発担当)の安部です。IRer、URAの傍ら、COC+事業で立ち上げた地域課題解決を目指す産学官連携PBL等も実施しています。

第6回男性医療人パパの会(ペンギンズ) オンライン料理教室&ノンテクニカルスキルミニ講座 2021.2.21(日)

医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター 副センター長、医療人パパの会「ペンギンズ」発起人の中田健です。女性医療人はもちろん、女性医療人と配偶者である確率が高く、職場の半分以上を占める男性医療人の理解を深める活動や医療人パパの支援もすべきと考え、6年前より医療人パパの会「ペンギンズ」を開催してきました。第6回目では、これまでの懇親会や講演といった枠を大幅に超え、なんとオンラインで各家庭から参加して料理教室を(子どもと一緒に)受けるというコンセプトで、新型コロナウイルス感染症により増えた家庭時間、内食を豊かにすべく、「オンライン料理教室&ノンテクニカルスキルミニ講座」を開催しました。Zoomによる双方向の参加とYou Tube視聴の2通りによる参加方法で医師、技術職、事務職、学生と幅広い方々に合計30名以上参加いただきました。



料理の講師には、パパ料理研究家として、多数のメディアに出演歴のある滝村 雅晴氏をお迎えし「オムライスとオーロラソースかけサラダ」にチャレンジしました。滝村氏と参加者との進行の確認、家族で役割を決めて協力しながら進めていく姿はまさに「ノンテクニカルスキル」の実践でした。講師と家族との協力の上で完成したオムライスとサラダを全員が披露しました。料理教室終了後、再チャレンジしたという親子もいたそうです。最後に滝村氏からご自身のワークライフであるトモシヨク(家族で食卓を囲む)の推進について話がありました。

今回のパパの会が家族のさらなるコミュニケーションづくりにお役に立てれば何よりです。



研究サポーター事業利用者からの声を聞きました。

医学部 呼吸器・感染症内科学講座 山末 まり 講師



西別府病院にて:左端より、山末講師、瀧川先生、板井先生、中村先生

研究サポーター制度を初めて利用させて頂いてから、3年になりました。素敵なサポーターさんと巡り会い、振り返ってみると本制度の利用は、今につながる転機の一つだったと思います。以前は目の前の業務をこなすだけで一日が終わり、家庭を持ちながら「臨床・研究・教育」の三役をこなす先輩医師は、雲の上の存在でした。今は、先輩方には到底及びませんが、研究や教育の領域にも少しずつ挑戦できるようになりました。その一つとして、大分県の結核医療体制強化事業で、西別府病院の先生方と一緒に、将来の結核診療を担う若手医師の育成に関わらせて頂いています。この事業では、結核診療の実務を学ぶだけでなく、臨床の中で感じた疑問を、既報に頼るだけでなく臨床研究を行い、自分で答えを見つけるスキルを身に付けてもらえるような指導も行っています。家庭との両立に悩んで、一歩を踏み出せずにいる若い先生がいらっしゃったら、この制度の利用は解決法の一つになるのではないかなと思っています。

理工学部 共創理工学科 北西 滋 准教授



この度は、昨年度に引き続き、研究サポーター事業に採択していただき誠にありがとうございます。思えば4年前に大分大学に着任して以降、慣れない環境に戸惑いながら過ごしてきました。特に一昨年からは、新たな科研費研究や初めての卒業研究指導が始まるとともに、第二子の誕生によって、慌ただしい日々を必死に過ごしてきました。このような中でも、研究活動を続けることができたのは、男女共同参画推進室の研究サポーター事業をはじめ、さまざまな方々からのサポートがあったからだと思います。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。まだまだ試行錯誤の毎日ではありますが、充実した研究活動を過ごせています。大分には多様な生物や豊かな自然環境があり、私の専門分野である生態学を進めるうえでとても魅力的な地域です。これからも、感謝の気持ちを忘れず、大分の魅力を発信できるような研究に邁進していきたいです。

女性研究者、県内報道機関各社との懇談会 2020.12.18(金)

大分大学では、毎年、県内報道機関各社と、北野正剛学長、役職者等との懇談会を実施しています。その中の研究発表で、今回は、女性研究者2名が発表を行いました。北野学長から大学情報の説明・発表があった後、松浦恵子副学長(ダイバーシティ担当)の司会で「国内外で活躍され、数々の受賞歴があり、お子さんを育てながら研究を継続されている女性研究者」と紹介された医学部 神経生理学講座 花田礼子教授は、「In vivo(生体)モデルを用いた疾患研究の展開」について発表されました。理工学部 小西美穂子助教は、国立天文台に勤務された後、1年半前に本学に着任され、「リケジョ応援プログラム」でも積極的に活動して下さっていると紹介された後、「太陽系外惑星探査と惑星形成現場に関する研究」について発表されました。小西助教の発表後、北野学長から「なぜ、天文学を研究しようと思ったのか」と質問があり、SFのような太陽系惑星を研究し、地球外生命体の発見までたどり着きたい、という気持ちで研究を続けていると回答されていました。2名の発表の後、北野学長から、県内報道機関各社に向けて、「これからも大分大学は、女性研究者支援を推進していくのでよろしくお願いします。」とのお言葉をいただきました。(場所:JCOMホルトホール大分)



医学部神経生理学講座 花田礼子教授



理工学部 共創理工学科 小西美穂子助教



男女共同参画推進室では、コロナ禍の中、ものづくり理工系分野へ進学する女子生徒を増やすための取組を工夫して行いました。

webオープンキャンパス開催 2020.9.1(火)~2020.9.7(月)

2020年度のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、web開催となりました。男女共同参画推進室からは、教育学研究科2名、経済学研究科1名、工学研究科4名、医学系研究科2名、福祉健康科学研究科1名、福祉社会科学部研究科1名の女子大学院生や卒業生1名、女性研究者4名から女子高校生への応援メッセージ動画を発信しました。



期間終了後のアンケートでは、「私は女子学生で、理工学部を志望しています。このように女子学生を応援していることを知りとても有難く感じ、不安も少し無くなりました。web上で紹介して下さりありがとうございました。」という声がありました。

この期間終了後も、FABのホームページに、女性研究者からの「リケジョ応援メッセージ動画」を掲載しています。FAB紹介CMや、リケジョQ&Aなども是非ご覧ください。

(<http://www.fab.oita-u.ac.jp/>)

★メッセージの発信に協力してくれた女性研究者

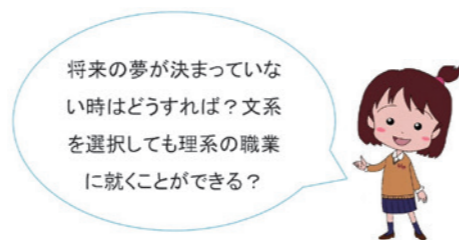


出前型のダイバーシティ入門講義 2020.10.6(火)

男女共同参画推進室では、2014年度から、女子中高生およびその保護者を対象に、出前講義形式で、①ダイバーシティ入門の講義、②研究者による理系研究の魅力発信(講義や実験)、③理系女子就職の変遷についての講演、④理系の女性研究者(教員・大学院生)との座談会を実施しています。

今年度は、大分県立佐伯鶴城高等学校1校のみの実施となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年実施している座談会の代わりに、事前に生徒の皆さんからいただいた質問に回答する、Q&A形式を取りました。また、理系女子大学院生2名の「リケジョ」応援メッセージ動画の放映、及び理工学部の女性研究者、理工学部の男性教員による講義を行いました。参加者は、生徒193名、保護者・教員134名でした。

〈生徒からの質問の一部〉



自身の経験を交えて進路選択について講演する 理工学部 小西美穂子助教



“コロナの影響—就職、大学での学び”について講演する 理工学部 石川雄一教授



松浦室長、大下副室長から質問に回答

地域開放推進事業 (Jr.サイエンス事業) 実験動画撮影をしました

本学の社会貢献活動の一環として実施している大学開放事業について、今年度は、対面でのプログラムを実施することが困難であったため、学内で実験動画作成の募集があり、男女共同参画推進室からも「リケジョ支援」として、「中学・高校の女子生徒とその保護者、及び興味のある方」を視聴対象とした、実験動画を作成しました。

実験内容は、ホームセンターやネット通販などで入手できる素材を使い、お湯と室温、室温と氷など温度差をつけることで動くスターリングエンジンを製作します。製作したエンジンを実際に動かし、熱源の温度、その配置の仕方でも回転の方向や回転数、エンジンの出力がどのように変化するかを測定します。ものづくりに興味をもってもらうと同時に、作品の動作特性を測定することにより自然科学や工学への関心を高めてもらえればと思います。作成した動画は、Jr.サイエンス事業のホームページに掲載しています。



理工学部 齋藤晋一助教 「低温度差スターリングエンジンの工作と運転」撮影の様子

ダイバーシティ入門

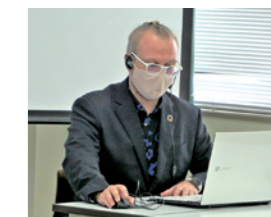
昨年度まで、後学期全学共通科目授業「男女共同参画入門」を開講していましたが、今年度より、授業名を「ダイバーシティ入門」と改めて開講しました。今年度の授業内容は一覧のとおりです。

今年度は、学内講師の他に、大分工業高等専門学校、あまべ文化研究所、労働局、ニッコン(株)、アイネスからも講師をお招きし、多様な視点からダイバーシティについて学びました。その他、鹿児島大学との交換授業(トライアル)を行いました。本学からは、あまべ文化研究所の岩佐先生の講義を、鹿児島大学からは、法文学部教授 原田いづみ先生の授業を共有し、広く深く学べる講義となりました。

今年度は、コロナの影響により、全てZoomによるオンライン授業となりました。後半で実施したグループワークでは、グループを5つに分け、グループ毎にそれぞれ3つの課題のうち一つを担当し、オンライン上でグループ毎に発表資料を作成し、最終日にプレゼンテーションを行いました。全てZoomのため、その方法に苦慮しましたが、主担当の大下晴美先生、城戸照子先生を中心に担当委員の先生方のご協力により無事に実施することができました。最終日のグループ発表会では、教職員及び受講生による審査を行い、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞を授与いたしました。この発表会を通して、半年間という短期間の講義でしたが、若い学生たちが「ダイバーシティ」に対する意識や知識を大きく進化させたことがわかりました。

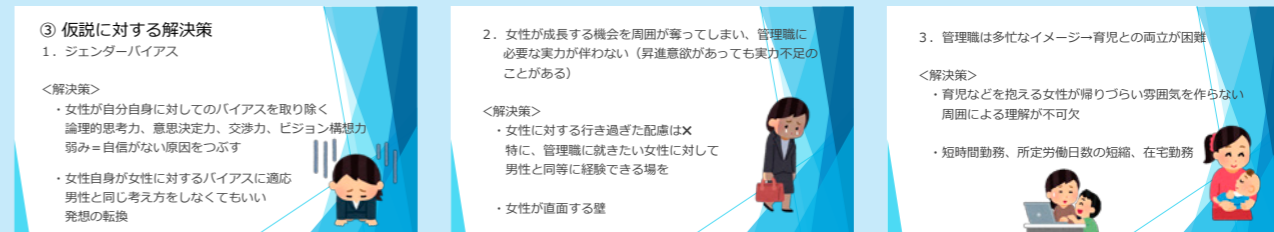


あまべ文化研究所 岩佐礼子さん



大分工業高等専門学校 Tomek Ziemba先生

グループ発表 最優秀賞 Case: 「女性管理職を増やす」に対する発表スライドの一部



2020年度 全学共通科目 授業科目名「ダイバーシティ入門」 オンラインZoom講義

日付	授業名	授業講師	日付	授業名	授業講師
1 10月7日	オリエンテーション ダイバーシティ入門	大下 晴美(医)	9 12月9日	大分県の女性活躍推進	大分県消費生活・男女共同参画プラザ 女性活躍推進監 柴北 友美 社会保険労務士 藤原 文司
2 10月14日	ダイバーシティと男性学入門	城戸 照子(経済)	10 12月16日	グループワーク:(1)オリエンテーション	大下 晴美(医)
3 10月21日	パンデミックからこれからの多様性を考える	あまべ文化研究所 代表 岩佐 礼子	11 12月23日	グループワーク:(2)	大下 晴美(医)・城戸 照子(経)
4 10月28日	「ダイバーシティとこれからの働き方」	大分労働局雇用環境・均等室長 新納(にいろ) 広子	12 1月6日	グループワーク:(3)	大下 晴美(医)・城戸 照子(経)
5 11月4日	経済・経営学的視点からのダイバーシティ	渡邊 博子(経済)	13 1月13日	グループ発表(1)リハーサル	大下 晴美(医)
6 11月11日	外国人から見た日本のダイバーシティの現状	大分工業高等専門学校 Tomek Ziemba(トメック・ジエンバ)	14 1月20日	グループワーク:(4)調整	大下 晴美(医)・城戸 照子(経)
7 11月25日	私のキャリアを通じて伝えられること	ニッコン(株) 代表取締役社長 佐藤 宝恵	15 1月27日	グループ発表(2) 最終審査	大下 晴美(医)
8 12月2日	「個人として尊重されること ~ジェンダーそしてダイバーシティ」	鹿児島大学法文学部教授 学長補佐(コンプライアンス担当) 弁護士 原田 いづみ			(敬称略)